



平成19年3月期 第3四半期財務・業績の概況（非連結）

平成19年1月23日

会社名 株式会社 カイノス

(JASDAQ・コード番号：4556)

(URL <http://www.kainos.co.jp>)

代表者役職名 代表取締役社長  
氏名 中村利通

問い合わせ先 責任者役職名 専務取締役 管理本部本部長  
氏名 徳永孔志

(Tel : 03 - 3816 - 4123)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 ・ (無)

最近会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有 ・ (無)

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 ・ (無)

2. 平成19年3月期第3四半期財務・業績の概況(平成18年4月1日～平成18年12月31日)

(1) 経営成績の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第3四半期	3,125	( 11.4 )	92	( 27.7 )	82	( 22.6 )	24	( 90.8 )
18年3月期第3四半期	3,528	( 9.2 )	128	( 2.6 )	105	( 12.5 )	267	( 433.2 )
(参考)18年3月期	4,589	( 6.0 )	164	( 0.4 )	142	( 0.6 )	230	( 215.8 )

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第3四半期	5 5	
18年3月期第3四半期	59 92	
(参考)18年3月期	51 78	

〔経営成績の進捗状況に関する定性的情報等〕

当第3四半期における国内景気は、国内企業の順調な業績回復に支えられ引き続き堅調に推移しておりますが、個人消費や物価の改善までには至っておらず、依然として回復途上という状況であります。経済環境につきましては、金融政策面で予想されておりました再利上げの実施時期について、消費や物価の改善具合を見極めながら慎重に検討されている状況であります。株価や為替相場などの面におきましても、利上げ時期の思惑なども影響して不透明な状況にあります。

このような環境のなか、当社におきましてはインフルエンザ診断薬の改良品を市場に投入するなど積極的な事業活動を展開してまいりましたが、当第3四半期におきましては、売上高につきましては、31億2千5百万円(対前年同期比11.4%減)となりました。生化学分野では市場での価格競争等の影響がありましたが微増となり、免疫分野では共同事業化等の影響により前年同期を下回る結果となりました。営業利益につきましては9千2百万円(対前年同期比27.7%減)、経常利益については8千2百万円(対前年同期比22.6%減)、四半期純利益については2千4百万円(対前年同期比90.8%減)となりました。

四半期純利益につきましては、前会計年度において輸血検査用試薬事業の新設分割に伴う株式譲渡益計上の影響により大幅な減少となっております。

## (2) 財政状態の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	6,050	2,465	40.8	553 02
18年3月期第3四半期	5,981	2,518	42.1	564 67
(参考)18年3月期	5,639	2,481	44.0	556 38

## 【キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	279	340	679	631
18年3月期第3四半期	125	210	174	888
(参考)18年3月期	171	61	388	572

## 〔財政状態の変動状況に関する定性的情報等〕

当第3四半期末における総資産は、主として笠間工場・研究室の増改築工事による設備投資等の増加により前期末に比べ4億1千1百万円増加し、60億5千万円となりました。

負債につきましては、主に設備投資資金の調達及び未払税金の減少により前期末に比べ4億2千6百万円増加し、35億8千4百万円となりました。また、純資産につきましては、利益処分による配当金の支出等により前期末と比べ1千5百万円減少し24億6千5百万円となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期における営業活動によるキャッシュ・フローは2億7千9百万円の支出となりました。これは主に法人税等1億5千3百万円の支払い及び未収入金の増加9千万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは3億4千万円の支出となりました。その主なものは、笠間工場・研究室の増改築工事、次期生産管理システム及び原価システム構築によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、6億7千9百万円の獲得となりました。これは主に設備投資及び短期運転資金を目的として調達したものです。

## 添付資料

(要約) 四半期貸借対照表、(要約) 四半期損益計算書など

以上

[ 参考 ] 平成 19 年 3 月期の業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	4,160	85	30	6 73

上記の予想には本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。競合状況・為替の変動などにかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

[ 業績予想に関する定性的情報等 ]

平成 18 年 10 月 24 日の中間決算短信で既にお知らせ致しましたとおり、当社はインフルエンザ試薬の改良品を市場投入するなど、積極的な事業展開を推し進めてまいりましたが、当第 3 四半期末までの季節的要因による影響を勘案し、アレルギー診断薬及びインフルエンザ診断薬の売上予測の見直しを行ったため、平成 19 年 3 月期の業績につきましては上記のとおり予想しております。

また、当第 4 四半期においてはノロウィルスの市場投入も予定しており、引き続き適正利益の確保を目指してまいります。

当期の設備投資におきましては、笠間事業所において研究施設の整備拡充及び次期生産管理システム及び原価システムへの投資を行っており、この投資による研究開発及び生産効率の改善を見込んでおります。